

平成 30 年度 福岡市立 [壱岐丘中] 学校 学校評価実施状況(公表用)

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
○ひとり一人の存在が認められる学校 安心して生活ができるきれいな環境の学校 明るい挨拶が交わされる元気で、規律のある学校 ○自らの「生き方」を考え、「生きぬく力」を身につける生徒 ○「チーム壱岐丘中」の一員として協働意識・参画意識をもつプロ教師		基礎学力の定着と学力の向上	○Fノートを活用した時間管理や1日の振り返りの習慣化 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての授業改善
		人権教育・道徳教育を通じた心の教育の充実	○小集団による交流活動を通して、自分の意見や考えを相手に伝えることができる生徒の育成 ○小集団による交流活動を通して、自他の意見の違いを認め、共に大切にする心や思いやりの心を育む
		不登校及び不登校傾向の生徒を生まない取組の充実	○生徒の状況に応じた個別の支援の工夫や支援体制の構築 ○未然防止するように情報の収集や共有(小中連携)及び、取組の充実を図る
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
学力の向上 基礎学力の定着 「主体的・対話的でわかる授業」への改善	1日1ページ学習の徹底(提出率95%以上)	・家庭学習定着のために1日1ページ学習を実施した。ほとんどの生徒は、提出できたが提出率は95%を下回っていた。	
	交流活動を取り入れた授業改善と公開授業研修会の実施	・昨年度道徳の授業に交流活動を取り入れ「対話的な学び」につながったので、本年度は、各教科の授業に導入した。どの教科も「対話的な学び」を取り入れ活発な交流活動ができた。	
	長期休業中における補充学習日の3日以上確保	・どの学年も夏季休業中に3日間、図書室で補充学習を実施した。	
人権教育・道徳教育を通じた心の教育の充実	ガイジ発言に関する学習を実施し、ガイジ発言を生まない取組を推進する。 (全員1回は、授業で実践し、ガイジ発言をさせない)	・どの学年も障がい者理解に関する学習を実施することができたが、部活動中に障がい者差別に類する発言が1件あった。	
	道徳の時間に交流活動を位置づけ、自分の意見を伝える場や自他の意見の比較や相違を確認する場を設定する。 (全員1回は、授業で実践する)	・道徳の授業では、学年や全体でのローテーションを行い全員が交流活動を取り入れた授業を行うことができた。	
	特別活動の時間に人間関係づくりを意図的・計画的に実践する。	・各学年の実態に合わせて人間関係づくりや集団づくりを意図的・計画的に行うことができた。	
不登校及び不登校傾向の生徒を生まない取組の充実	登校支援教員と連携し、計画的に働きかけ・支援する。	・登校支援教員と連携し、不登校生の状況を確認しながら支援してきた。	
	生徒・保護者に対してSSWやSCと連携した支援を実施する。	・不登校及び不登校傾向の生徒に対してSCやSSWが積極的に関わるよう指導・助言した。また、学校でのカウンセリングや家庭訪問も積極的に行ってもらった。	
	保護者や小学校・地域と連携したネットワークを構築し、協働体制で支援する。	・不登校支援教員やSC・SSWに小学校や各家庭に足を運んでもらい組織的な関わりができるように支援体制を少しずつ、構築している。	
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
・不登校生及び、不登校傾向の生徒を減らすことが課題である。 ・いい立志式だった。できることならば、もっと大きな夢を語って欲しい。 ・落ち着いた学習状況である。今後は、生徒の学習意欲をどう引き出すかが課題である。			